

# 日本顕微鏡学会会報

2006  
No.1

社団法人 日本顕微鏡学会

■2006年3月31日発行

■〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6  
大塚三丁目ビル  
リアライズ AT 株式会社

■TEL: 03-5940-7290 ■FAX: 03-5940-7980  
■E-mail: satomi@realize-at.jp  
■URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsm>

## ◇日本顕微鏡学会第62回学術講演会について

本年度は国際顕微鏡会議 IMC16 が日本で9月に開催される記念すべき年ですが、春の学術講演会・総会も例年通り5月に横浜市立大学で開催されます。内容は IMC16 となるべく重複しないよう、シンポジウム形式で行います。一般演題の発表はありません。テーマの1つは国際学会の開催にあたり、世界をリードしてきた日本の電子顕微鏡学の黎明期について、当時から活躍されてきた世界的に著名な先生方に、当初の苦労話などを伺いながら、今後の学会の発展への方向性をつかもうというものです。午前のセッションはこれとは対照的に、新しい顕微鏡法の現状とバイオへの応用、最近大きな展開のある STEM 法の現状と材料への応用について、それぞれのこの分野をリードする先生方にわかりやすく語っていただくという企画です。

会期は1日だけのコンパクトなものですが、せっかくの機会ですので大勢の会員に参加していただき、実り多い講演会になることを願っています。

1. 日程：平成18年5月20日（土）  
ただし理事会等、一部の行事は5月19日（金）にも開催されます
2. 会場：横浜市立大学金沢八景キャンパス  
（横浜市金沢区瀬戸 22-2）  
横浜駅、品川駅、羽田空港駅などより京浜急行「金沢八景」駅より徒歩約5分  
アクセス方法の詳細は綴じ込みのプログラムまたはホームページをご覧ください
3. 今回は、国際顕微鏡会議 IMC16 の開催に当たり、「日本の電子顕微鏡学の黎明期を語る」を午後のメインシンポジウムとし、日本の電子顕微鏡学の礎を築かれた先生方のお話を伺う企画をしています。  
午前中は、趣を対照的に最新の技術を中心に、材料系「最近の STEM の進展と材料への応用」、生物系「新しい顕微鏡法を使いこなす」というシンポジウムを計画しています。
4. 参加費（当日配布の予稿集代を含む）：

日本顕微鏡学会員

2000円（4月30日まで）

3000円（5月1日以降）

学生会員

無料

非会員

3000円（4月30日まで）

4000円（5月1日以降）

## 5. 懇親会費：

日本顕微鏡学会員、非会員とも

4000円（4月30日まで）

5000円（5月1日以降）

学生会員

2000円（4月30日まで）

3000円（5月1日以降）

## 6. 問合せ先・申込み（FAXまたはE-mailにて）：

講演会事務局

横浜市立大学医学部解剖学第一

TEL: 045-787-2567 FAX: 045-787-2568

E-mail: [soshiki@yokohama-cu.ac.jp](mailto:soshiki@yokohama-cu.ac.jp)

参加費、懇親会費の送付先はホームページをご覧ください。

## 7. ホームページ：

<http://bioimage.med.yokohama-cu.ac.jp/em2006>

8. 実行委員：澤田 元（横浜市立大学医学部）、幾原雄一（東京大学総合研究機構）、川上速人（杏林大学医学部）、坂 公恭（名古屋大学工学部）

## ◇第16回電子顕微鏡大学開催の御案内

—初心者と中堅のための電子顕微鏡技術セミナー—

電子顕微鏡はナノマテリアルをはじめとする先端材料の研究やバイオロジーの分野まで広い領域で、高度で有用な物質情報収集の担い手として、とみに存在感を増しつつあります。しかし、その機能と性能を十分に活用し、真に有用なデータを得るには、どうしてもある程度の基礎知識と操作の技術が要求されることも事実です。

こうした状況を踏まえ、材料研究に従事する研究者や技術者で、これから電子顕微鏡を利用しようとする人あるいは、始めて間もない初級・中級レベルの人を対象に、電子顕微鏡法の基礎的技術セミナー「電子顕微鏡大学」を開講しています。電子顕微鏡による材料の評価法及び分析法を講義して好評のうちに今回で第16回目を迎えます。アンケートによる受講者の意見の迅速な反映、好評の「質問・解答集」の送付など、受講者講師陣一体となった「平易で役立つセミナー」となるよう情熱を傾けています。物質・材料研究の次代を担う諸兄の受講をお誘い致します。

主催：日本顕微鏡学会

日時：2006年4月20日（木）、21日（金）

会場：東京工業大学大岡山キャンパス社会理工学研究科棟デジタル多目的ホール  
（大岡山キャンパス W9 号館）  
東京都目黒区大岡山 2-12-1  
会場地図はこちら  
（<http://www.titech.ac.jp/access-and-campusmap/j/okayama-campusmap-j.html>）

交通：大岡山駅より徒歩二分

交通の詳細はこちら

（<http://www.titech.ac.jp/access-and-campusmap/j/access-j.html>）

定員：150名（定員に至った時点で締め切ります）

受講料：日本顕微鏡学会会員および同賛助会員 30,000円、  
（テキスト代含む）協賛学会会員 45,000円、非会員 60,000円、学生 10,000円

協賛学協会（予定）：日本物理学会、応用物理学会、日本化学会、日本分析化学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、電気学会、電子情報通信学会、軽金属学会、日本アルミニウム協会、表面技術協会、高分子学会、高温学会、日本セラミックス協会、日本電子材料技術協会、日本複合材料学会、日本表面科学会、日本アイソトープ協会、日本結晶学会、日本航空宇宙工業会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本材料科学会、精密工学会、ステンレス協会、溶接学会、日本生物物理学会

申込先：「電顕大学」事務局

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目  
北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センター マルチスケール機能集積分野内  
TEL: 011-706-6768 FAX: 011-706-6768  
E-mail: [dendai@ufml.caret.hokudai.ac.jp](mailto:dendai@ufml.caret.hokudai.ac.jp)

申込締切：2006年4月17日（月）

申込方法：表題を「第16回電顕大学参加申込書」とし、氏名・勤務先・所属・住所・電話・FAX・E-mail、申込資格\*を記入のうえ、郵便またはE-mailのいずれかによりお申し込み下さい。定員以内であれば、受理通知を差し上げます。受講

料は受理通知受領後に納入してください。

\*：1) 本学会会員、2) 協賛学会会員、3) 本学会賛助会員、4) 非会員、5) 学生のうちから該当の資格をお選びください。  
1) については会員番号を、2) については学会名・会員番号をそれぞれご記入下さい。

振込方法：下記の口座に郵便振込にて受講料を申込締切日までにお振り込みください。振込が確認された時点で「受講証」と領収書をお送り致します。「受講証」は当日会場で御呈示して頂きますので大切に保管して御持参下さい。

振込口座 番号：19070-26419291

名称：電子顕微鏡大学

## 第16回電子顕微鏡大学プログラム（予定）

〈第1日目〉4月20日（木）9：40～17：15

〈イントロダクション〉

1. 電子顕微鏡のハードウェア  
—基本構造のやさしい解説—

及川哲夫（日本電子）

〈電子顕微鏡特論（1）構造解析〉

2. 電子回折法—一回折図形の原理と構造情報—

田中通義（東北大・多元研）

3. 明視野像法、暗視野像法  
—材料組織と格子欠陥の詳細な観察法—

坂公恭（名大・工）

4. 原子構造の解析

- 1) 高分解能電顕法の基礎  
—格子像原理のわかりやすい解説—

田中信夫（名大・工）

- 2) 高分解能電顕法の実際  
格子像観察で守るべき技術的ポイント

市野瀬英喜（北大・エネマテ）

〈第2日目〉4月21日（金）9：30～17：50

〈電子顕微鏡特論（2）局所分析〉

5. エネルギー分散型X線分光法（EDS）  
—元素分析の原理と実際—

板東義雄（物質・材料研究機構）

6. 電子エネルギー損失分光法（EELS）

—電子構造の情報を捉える—

倉田博基（京大・化研）

7. 試料作製法—最適試料作成法と新手法—

上田修（金沢工業大学）

〈電子顕微鏡特論（3）表面分析〉

8. 表面のマイクロ構造  
—走査電顕（SEM・EPMA）SEM像と元素分析—

永田文男（ソリューション・ナタ）

9. 表面の原子・電子構造—走査型トンネル顕微鏡（STM・AFM）原理と技術的ポイント—

富取正彦（北陸先端科技大）

◇第22回分析電子顕微鏡討論会について

第22回分析電子顕微鏡討論会を下記の要領にて開催いたします。

(代表責任者：北大・エネマテ 市野瀬英喜)

「分析電子顕微鏡の基礎から最先端技法まで」

期 日：平成18年8月29日(火)、30日(水)

会 場：幕張メッセ(分析機器工業会主催の分析展と同時に開催)

参加費(予稿集含む)：会員及び協賛学会員6,000円、学生3,500円、非会員7,000円

内 容：今回もEDS, EELSおよびCsコレクターTEMに関する基礎(チュートリアル)と電子顕微鏡・装置開発に関する将来動向(収差補正技術、マイクロカロリメータ等)を紹介するとともに、企業における分析電顕の応用例の紹介(high-k, low-k誘電体材料, ナノ粒子, 自動車材料等)や試料作製法について講演が行われます。また特別講師を招いての特別講演も催されます。一般からの口頭発表も募集していますので、奮ってご参加ください。

プログラム・申込方法等：詳細については、以下のホームページをご参照下さい。

<http://www.caret.hokudai.ac.jp/bunseki/index.html>

問合先(兼連絡先)：

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目  
北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センター  
マルチスケール機能集積分野 坂口紀史  
TEL: 011-706-6768 FAX: 011-706-6768  
E-mail: bunseki@ufml.caret.hokudai.ac.jp

◇SCAN TECH2006のご案内

走査電子顕微鏡分科会／SCAN TECH 実行委員会

SCAN TECHは、走査電子顕微鏡分科会が主催する催しで、あらゆる分野の研究者あるいはSEM本体、周辺機器に関わる研究者が一堂に集まり、講師、参加者、実行委員を交えて納得のいく討論をする場です。

最近のSEMは、装置の高分解能化に伴い、簡単な操作で試料の表面や内部の三次元微細構造を詳細に観察できるようになりました。その一方で、試料の真の姿を観るためには、目的に応じた試料作製方法、観察条件の選択が必要になります。また、得られた像が試料の真の姿なのかを判断するためには、SEM特有の画像コントラストを理解し、像解釈を正しく行うことと、TEM, AFM等の各種顕微鏡の情報や経験を有効に利用することが非常に重要になります。しかし、これらのテクニックに関する情報はなかなか表に出ることがなく、また議論をする場も少なくなっています。

このような点をふまえて今回は、

“真の姿を観るSEMテクニック～成功・失敗何が違う～”をテーマに、SCAN TECH2006を下記の通り開催することと

なりました。

講演中、講師と直接、あるいは参加者同士、気軽にディスカッションが出来る時間を設け、お互いの情報を有効に共有できる会にする予定です。奮ってご参加ください。

記

タイトル：真の姿を観るSEMテクニック

～成功・失敗何が違う～

開催期日：2006年10月13日(金)

会 場：東京大学武田先端知ビル

(東京都文京区弥生2-11-6)

なお、詳細は走査電子顕微鏡分科会HP(<http://homepage1.nifty.com/scantech/>)に逐次掲示いたします。

◇第51回学会賞(瀬藤賞)について

2006年度学会賞(瀬藤賞)は31件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、理事会において以下の会員に授与が決定しました。

[A：顕微法基礎部門]

永山國昭「位相差電子顕微鏡法の開発と生物学への応用研究」

[B：応用研究(生物)部門]

近藤尚武「神経系の情報伝達機構に関する形態学的研究」

牛木辰男「走査プローブ顕微鏡法の開発と新たな生体構造解析分野への応用研究」

[C：応用研究(非生物)部門]

長我部信行「電子顕微鏡の新観察手法を用いた材料学・物理学分野の応用研究の開拓」

◇第21回論文賞について

2006年度論文賞は選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の論文に授与が決定しました

[b：応用研究(生物)部門]

Application of real-time confocal laser scanning microscopy to observe living cells in tissue specimens, T. Saino and Y. Satoh (JEM, 53-1, 49-56 (2004))

[c：応用研究(非生物)部門]

Suzuki segregation in a binary Cu-Si alloy, B.G. Mendis, I.P. Jones and R.E. Smallman (JEM, 53-4, 311-323 (2004))

[d：和文誌賞]

「CBEDを用いたキラリティーの決定」, 乾 晴行, 藤井昭宏, 坂本宙樹, 田中克志(顕微鏡, 39-3, 162-167 (2004))

◇第11回技術功労賞について

2006年度技術功労賞は4件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の会員に授与が決定しました

[①：装置・理論部門]

松田 強「高干渉性電界放出電子顕微鏡の開発ならびにその応用研究」

森田千明「超高压電子顕微鏡用電界放出電子銃開発に関する基礎研究」

[②：物質系応用研究部門]

平坂雅男「高分子基板記録材料における電顕観察技術の開発および普及」

#### ◇第8回奨励賞について

2006年度奨励賞は6件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の会員に授与が決定しました。

[Ⅱ. 生物系応用研究部門]

寺田信生「種々の凍結技法による生きた動物細胞組織の機能形態学的解析」

許斐麻美「酵母の細胞壁および隔壁形成の分子解剖学的研究」

[Ⅲ. 物質系応用研究部門]

三石和貴「ナノ構造作製に適用できる電子顕微鏡法の開発に関する研究」

#### ◇第52回学会賞(瀬藤賞)受賞候補者の募集

第52回学会賞(瀬藤賞)受賞候補者(推薦・自薦)を公募します。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡ください。推薦締切は本年7月14日です。

#### ◇第21回論文賞候補者の募集

第21回論文賞候補者(推薦・自薦)を公募します。推薦方法は過去2年間の学会誌(「電子顕微鏡」39・40巻,「JEM」53・54巻)に掲載された論文が対象となっています。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡ください。推薦締切は本年7月14日です。

#### ◇第12回技術功労賞候補者の募集

故神谷芳弘先生からの寄付をもとに平成8年度から電子顕微鏡応用技術の進歩発展に関し、優れた功労のある方に技術功労賞を授与しています。本賞受賞候補者(推薦・自薦)を公募します。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。推薦の締切は本年7月14日です。

#### ◇第8回奨励賞候補者の募集

故深井孝之助先生からの寄付をもとに電子顕微鏡学および顕微鏡法研究にかかわる若手研究者奨励のため、平成13年度から奨励賞を設置しています。本賞受賞候補者(推薦・自薦)を公募します(推薦締切:本年7月14日)。受賞対象者は本年7月末日において満40歳未満となっています。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。

#### ◇2005年度技術認定試験結果の報告

2005年度技術認定試験は2005年10月15日に、東京・

京都・福岡の3会場で実施されました。結果は次のとおりです。

1) 二級技士(生物):

受験者92名 合格者82名(合格率89%)

2) 一級技士Ⅰ:受験者4名 合格者4名(合格率100%)

3) 一級技士Ⅱ:受験者8名 合格者6名(合格率75%)

4) 一級技士Ⅲ:受験者2名 合格者2名(合格率100%)

5) 一級技士Ⅳ:受験者2名 合格者2名(合格率100%)

【二級技士(生物)認定者(合格者)】

栃木直文(1091), 栃木陽巳(1092), 岡戸恵子(1093), 小川隆文(1094), 梶谷博則(1095), 藤澤亜希子(1096), 福田智史(1097), 平松拓郎(1098), 青木志津子(1099), 風間宏美(1100), 馬場也須子(1101), 中國泰宏(1102), 中野 隆(1103), 川島希世子(1104), 乾 直美(1105), 石井真由美(1106), 小塚智沙代(1107),

小浦由佳(1108), 西俣俊哉(1109), 高瀬弘嗣(1110), 松宮晃子(1111), 岩田忠成(1112), 川崎修央(1113), 福永裕子(1114), 前原通代(1115), 細川 徳(1116), 加藤智樹(1117), 服部友美(1118), 南部幸恵(1119), 徳山陽子(1120), 尾松陸子(1121), 岡村州啓(1122), 松田幸恵(1123), 隠塚美喜(1124), 本田陽子(1125), 金丸あや(1126), 小西裕子(1127), 光安 裕(1128), 白倉千早(1129), 中川莉彩(1130), 山崎良樹(1131), 塚田謙一(1132), 清水仁聡(1133), 近藤民章(1134), 田上静奈(1135), 奥山美由紀(1136), 佐藤千夏(1137), 河田 哲(1138), 谷垣俊明(1139), 坂本君江(1140), 金 佳美(1141), 眞崎美圭(1142), 平伴英美(1143), 今里 圭(1144), 小暮美穂(1145), 児玉敬章(1146), 瀬藤和也(1147), 岩部幸枝(1148), 萩原福雄(1149), 後藤理恵(1150), 岩本英樹(1151), 田中利依(1152), 矢ヶ崎佳代子(1153), 永瀬綾子(1154),

脇田 瞳(1155), 園田美穂(1156), 三井佐保子(1157), 武井史郎(1158), 福田浩司(1159), 山口美里(1160), 山田祐記子(1161), 甲斐晃子(1162), 加々良尚子(1163), 高倉菜菜(1164), 田中亚由美(1165), 池田道仁(1166), 齋藤暢子(1167), 久富登紀子(1168), 坂本由香理(1169), 高橋真梨子(1170), 砂押毅志(1171), 佐藤岳志(1172)

【一級技師Ⅰ合格者】

石原陽介, 草間たか子, 堀川祥生, 矢野哲也

【一級技師Ⅱ合格者】

石原陽介, 大石 誠, 大野真由子, 織田志郎, 櫻林靖哲, 矢野哲也

【一級技師Ⅲ合格者】

石原陽介, 渡辺孝平

【一級技士認定者(一級技師Ⅳ合格者)】

前野健一郎(91), 伊藤美奈子(92)

注) ( ) 内は認定登録番号

◇第15回電子顕微鏡大学決算報告

2005年4月18日(月)～19日(火)に東京工業大学大岡山キャンパスで行われた第15回電子顕微鏡大学には89名の受講者がありました。

収入の部

科 目	決 算
開催補助金	100,000
参加費	
正会員 (22)	660,000
賛助会員 (21)	630,000
協賛会員 (14)	630,000
非会員 (15)	900,000
学 生 (17)	170,000
テキスト販売	5,000
合 計	3,095,000

支出の部

科 目	決 算
DM作製・郵送費	159,116
郵送費	15,710
テキスト印刷費	270,007
会場費	55,682
会場費振込手数料	120
交通費	294,000
資料調査費	500,000
Q&A集印刷・郵送費	119,502
事務費	50,000
謝金(アルバイト代)	236,000
雑費	4,716
合 計	1,704,853

収益

収 入	3,095,000
支 出	1,704,853
収 益	1,390,147

◇第61回学術講演会報告

2005年6月1日(水)～3日(金)にエポカルつくばで行われた第61回学術講演会の収支決算は以下のとおりです。

(社)日本顕微鏡学会第61回学術講演会  
(平成17年5月31日から6月3日:つくば)

決算報告書

収入の部			
摘 要	単 価	小 計	
参加登録費(有料参加者:872名、参加総数:1028名)			
<b>6,621,000</b>			
早期登録			
会員・関連学会等会員	347名	6,000	2,082,000
非会員	105名	9,000	945,000
通常登録			
会員・関連学会等会員	202名	7,000	1,414,000
非会員	218名	10,000	2,180,000
無料参加	156名	0	0
発表要旨集(CD)(販売数:476部)			
<b>1,052,500</b>			
早期登録			
会員・関連学会等会員	300名	2,000	600,000
非会員	53名	2,500	132,500
会員・関連学会等会員	15名	2,000	30,000
通常登録			
会員・関連学会等会員	68名	2,500	170,000
非会員	40名	3,000	120,000
懇親会費(有料参加者:294名)			
<b>2,194,000</b>			
早期登録			
会員・協賛学会等会員	151名	7,000	1,057,000
非会員	18名	8,000	144,000
日本顕微鏡学会学生会員	8名	3,000	24,000
通常登録			
会員	69名	8,000	552,000
非会員	45名	9,000	405,000
日本顕微鏡学会学生会員	3名	4,000	12,000
チュートリアル(受講者:83名)			
<b>1,358,500</b>			
早期登録			
会員	21名	12,000	252,000
非会員	27名	18,000	486,000
通常登録			
会員	10名	15,000	150,000
日本顕微鏡学会学生会員	3名	7,500	22,500
非会員	22名	20,000	440,000
テキスト代	2名	4,000	8,000
広告料			
<b>1,370,000</b>			
機器展示			
<b>11,663,500</b>			
協賛			
<b>1,274,190</b>			
日本電子・日立・日本FEI			
冠WS			
<b>110,000</b>			
11件 10,000			
本部補助			
<b>2,500,000</b>			
雑収入			
<b>792</b>			
銀行利息等			
<b>収入合計</b>			
			<b>28,144,482</b>

支出の部	
摘要	小計
(*は振込手数料込み)	
実行委員会経費	804,648
会議準備費	473,838
委員会会場費*	30,625
委員交通費	334,500
委員会弁当・お茶代*	107,348
振込手数料	1,365
会議当日運営費	286,780
看板、資料代(つくばコンベンションビューロー)*	112,725
文具購入	1,844
コーヒー等購入	6,636
海外招待講演者宿泊費補助(4泊分)*	43,575
海外招待講演者講演謝金(1名)	30,000
学生アルバイト代	92,000
チュートリアル準備費	44,030
広告費(まてりあ掲載)*	16,120
講師旅費(1名)*	27,910
業務委託費(委託先:アイシーエス・コンベンションデザイン)	25,313,601
雑費	24,390
(登録)	21,050
郵便振替手数料	20,230
郵便振替差額	190
送金手数料	630
(展示)	3,340
送金手数料	2,500
解約時振込手数料	840
本部へ返金(平成17年12月28日)*	2,001,843
<b>支出合計</b>	<b>28,144,482</b>

内訳: 1. 講師資料代	300,000
2. 事務費	40,000
通信・運送費	28,650
人件費(アルバイト謝金)	15,000
出版物費(本購入費他)	28,597
会議費	26,670
飲み物代	2,520
雑支出	1,260
学会本部へ繰入金(収益)	470,750
<b>合計</b>	<b>1,459,801</b>

収支決算 (単位:円)	
収入合計額	1,459,801
支出合計額	1,459,801
差引残高	0

#### ◇永年会員について

正会員歴30年以上でかつ満65歳以上の会員は5年分の会費を一括前納することにより永年会員となることが出来ます(永年会員:終生正会員の資格を保有)。永年会員の申請については学会事務局へお尋ねください。

#### ◇第50回シンポジウム論文集頒布について

2005年11月1日から2日に九州大学 医学部地区 百年講堂で開催した第50回シンポジウム(テーマ:顕微鏡学による次世代への挑戦)では要旨集を発行しました。ご希望の方は下記までご連絡ください。(頒布価格:2,500円)

問い合わせ先:

〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6  
大塚三丁目ビル(社)日本顕微鏡学会事務局  
TEL: 03-5940-7640 FAX: 03-5940-7980  
E-mail: kenbikyoto@realize-at.jp

#### ◇第16回電子顕微鏡サマースクール決算報告

2005年7月29日(金)～30日(土)に日本女子大学・目白キャンパスで行われた第16回サマースクールには91名の受講者がありました。収支決算は以下のとおりです。

収入の部 (単位:円)

科目	決算
参加費収入	1,046,000
学会本部補助金収入	100,000
企業寄付金収入	290,000
本販売費収入	23,800
雑収入(銀行利息)	1
<b>合計</b>	<b>1,459,801</b>

支出の部 (単位:円)

科目	決算
渉外費(昼食・懇親会費)	272,010
印刷費(ポスター作成他)	48,850
消耗品費	37,834
委員交通費	187,660
事務費	340,000

#### ◇関係学協会の案内

- 第6回(平成18年度)財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞候補者募集

締め切り:2006年4月30日(必着)

問い合わせ先:

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6  
財団法人材料科学技術振興財団  
山崎貞一賞事務局  
TEL: 03-3415-2200 FAX: 03-3415-5987  
E-mail: prize@mst.or.jp  
URL: <http://www.mst.or.jp/prize/>

- SURTECH & Coating Japan 2006 総合表面技術博覧会

開催日:2006年4月26日(水)～28日(金)

場所:東京流通センター(平和島)

問い合わせ先:

(社)表面技術協会「SURTECH & Coating Japan

2006」実行委員会 (〒101-0041 東京都千代田区  
神田須田町2-7-1 福田ビル)  
TEL: 03-3252-3286 FAX: 03-3252-3288  
E-mail: terasawa7@dream.com

3) 実習を主にした・初心者のための真空技術基礎講習会

開催日: 2006年5月23日(火)～26日(金)

場 所: 大阪府立産業技術総合研究所

連絡先: 大阪府立産業技術総合研究所内

(社)大阪府技術協会

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-7-1

TEL: 0725-53-5329 FAX: 0725-53-2332

4) Second International Symposium on Standard Materials and  
Metrology for Nanotechnology (SMAM-2)

開催日: 2006年5月25日(木)～26日(金)

場 所: 東京/秋葉原コンベンションホール

連絡先: 藤本俊幸(実行委員会 Secretary)

〒305-8568 つくば市梅園1-1-1

産総研 中央第5

E-mail: SMAM2-EC@m.aist.go.jp

T.Fujimoto@aist.go.jp

5) 第9回非接触原子間力顕微鏡法国際会議  
(NC-AFM2006)

開催日: 2006年7月16日(日)～20日(木)

場 所: 神戸国際会議場

連絡先: NC-AFM 事務局

E-mail: ncafm@ele.eng.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻

TEL: 06-6879-7762 FAX: 06-6879-7764

E-mail: abe@eei.eng.osaka-u.ac.jp

6) 第25回電子材料シンポジウム (EMS25)

開催日: 2006年7月5日(水)～7月7日(金)

場 所: ホテルサンバレー富士見

問い合わせ先: ICNSDT-10 事務局

〒100-0013 札幌市北区北13条西8丁目

北海道大学量子集積エレクトロニクス研究セン  
ター 本久順一

TEL: 011-706-6871 FAX: 011-716-6004

E-mail: motohisa@rciqe.hokudai.ac.jp

7) 第41回表面科学基礎講座 表面・界面分析の基礎と応用

開催日: 2006年7月5日(水)～7日(金)

場 所: 総評会館2F

問い合わせ先:

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13

本郷コーポレーション402

日本表面科学会・第41回表面科学基礎講座係

TEL: 03-3812-0266 FAX: 03-3812-2897

8) オルガテクノ (ORGATECHNO) 2006

—「有機テクノロジー展/有機テクノロジー国際会議」—

開催日: 2006年7月25日(火)～27日(木)

場 所: パシフィコ横浜

問い合わせ先: ORGATECHNO 事務局

日本イージェイケイ(株)内

〒107-0052 東京都港区赤坂4-9-17

赤坂第1ビル

TEL: 03-5772-1321 FAX: 03-5772-1324

E-mail: tahira@ejk-japan.co.jp (担当: 田平)

URL: <http://www.orga-techno.com>

9) The 5th International Conference on LEEM/PEEM  
(LEEM\_PEEM-V)

「第5回低エネルギー電子顕微鏡及び光電子顕微鏡国際  
会議」

開催日: 2006年10月15日(日)～19日(木)

場 所: イーグレひめじ(姫路市)

問い合わせ先: LEEM\_PEEM-V 実行委員会

委員長 木下豊彦

〒679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都1-1-1,

SPring-8

(財)高輝度光科学研究センター利用研究促進部  
門

TEL: 0791-58-0802 (PHS 3129)

FAX: 0791-58-0830

E-mail: leem-peem-v@spring8.or.jp

URL: <http://leem-peem-v.spring8.or.jp/>

10) 第3回ニールス・ステンセン記念国際唾液腺シンポジウ  
ム

The 3rd International Symposium on Salivary Glands in  
Honor of Nils Stensen

開催日: 2006年10月20日～24日

場 所: 岡崎カンファレンスセンター

問い合わせ先:

M. Murakami Nano-Structure Physiology National  
Institutue for Physiological Sciences (NINS, NIPS)

5-1 Higashiyama, Myoudaiji, Okazaki, 444-8787

TEL: +81-564-59-5268

FAX: +81-564-59-5269

E-mail: masataka@nips.ac.jp

11) 第10回化学・生命科学マイクロシステム国際会議  
( $\mu$ TAS 2006) アブストラクト募集

開催日: 2006年11月5日(日)～9日(木)

場 所: 東京国際フォーラム

問い合わせ先:  $\mu$ TAS 2006 国際会議事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-6-5

トーカン新宿キャステール603 越膳事務所気付

TEL: 03-3346-8007 FAX: 03-3346-8002

E-mail: microtas2006@conferences.jp

12) 次世代 ULSI デバイスのための誘電体薄膜科学と技術に  
関する 2006年国際ワークショップ

開催日：2006年11月8日（水）～10日（金）  
場 所：川崎市産業振興会館  
問い合わせ先：IWDTF-06 組織委員会事務局 渡邊  
TEL & FAX: 03-5286-8318  
E-mail: watanabe-t@waseda.jp  
URL: http://home.hiroshima-u.ac.jp/iwdtf/

◇日本顕微鏡学会平成17年度第2回理事会議事録

日 時：平成17年8月27日（土）15:00～17:00  
会 場：学士会館分館 東京都文京区本郷7-3-1  
出席者：理事：山科正平，弘津禎彦，大谷 修，川上速人，平山 司，松井良夫，柿林博司，上野武夫，桑野範之（兼第50回シンポジウム実行委員長）（代理 友清芳二），関口隆史，高井義造，中村裕昭，福島球琳男，藤川清三，横田貞記  
監事：依藤 宏，下山 宏  
委任状出席：永山國昭  
オブザーバー：欧文誌編集委員長：市野瀬英喜，和文誌編集委員長：菅沼龍夫，第62回学術講演会実行委員長：澤田 元，IMC事務局：古屋一夫

【報告】

1. 庶務報告：第1回理事会以降の会務報告が行われた。
2. 会計報告：7月31日現在の会計報告が行われた。
3. 欧文誌編集委員会報告：編集進捗状況の報告が行われた。
4. 和文誌編集委員会報告：編集進捗状況の報告が行われた。
5. 各種委員会の新人事と業務引き継ぎ
  - ①アーカイブス委員会  
委員長：外村 彰 副委員長：澤田 元  
委員：坂 公恭，川上速人，朝倉健太郎，永田文男，福島球琳男
  - ②会員増強委員会  
委員長：弘津禎彦  
賛助会員対応：柿林博司，岩槻正志  
個人会員対応：平山 司
  - ③アジア地区の顕微鏡学会との関係検討  
新委員長：（留任）友清芳二（2006年3月退官まで）
  - ④支部区割検討委員会  
委員長：（留任）大野伸一
  - ⑤広報委員会  
委員長：（留任）丹司敬義 副委員長：（留任）千田隆夫
  - ⑥日本の（電子）顕微鏡の将来を考える会  
委員長：山科正平
6. 第62回学術講演会準備状況報告：澤田実行委員長より準備状況が下記のとおり報告された。
  - ① IMC16 が同年2006年に開催されるため，総会を主体に行いシンポジウム形式で講演を行うことを検討している。

- ②場所は横浜市立大学金沢八景キャンパスを予定。すでに予約済である。
- ③日時は5月20日（土）10:00～16:00と5月27日（土）10:00～16:00の2案で検討中である。

④プログラム委員

委員長：澤田元実行委員長兼任  
副委員長：幾原雄一（東大一非生物系），川上速人（杏林大一生物系）

⑤プログラム案

10:00～12:00  
テーマ「日本の電子顕微鏡学の創生期」アーカイブス委員会を中心に企画。  
12:30～14:00 総会他  
14:00～16:00  
非生物系と生物系の平行でセッション  
9月上旬にプログラム概略を決定予定。

7. 第50回シンポジウム準備状況報告：友清芳二実行委員により準備状況が報告された。
8. IMC16の件：古屋一夫総務委員長により準備状況報告が行われた。

【議題】

1. 第51回シンポジウムの件：国際会議が行われた際にはシンポジウムを行わなかった前例に従い，2006年にはシンポジウムを行わないことが提案され承認された。
2. 第63回学術講演会の件：開催地は新潟県を，実行委員長は牛木評議員を候補者として検討していくこととなった。
3. 第16回電頭大学の件：高柳邦夫会員が引き続き企画委員長に就任することが承認された。
4. 第17回サマースクールの件：開催地は宮崎県を，実行委員長は菅沼評議員を候補者として検討していくこととなった。
5. 平成17年度研究部会・分科会の件：平成17年度分科会・研究部会申請要項等が提示され，これを承認し，学術運営委員会へはかることとなった。
6. 各賞選考委員の件：平成17年度各賞候補者（論文）について報告が行われ，各賞選考委員を以下の会員へ委嘱することとなった。  
「学会賞（瀬藤賞）選考委員会」◎は主査  
委員長：鷹岡昭夫（顕微法基礎部門主査兼）  
応用研究（生物）部門：◎井出千束，内山安男，澤田 元  
応用研究（非生物）部門：◎丹司敬義，寺内正己，松村 晶  
「論文賞選考委員会」◎は主査  
委員長：磯田正二（顕微法基礎&和文誌賞部門主査兼）  
応用研究（生物）部門：◎片岡勝子，大野伸一，牛木辰男  
応用研究（非生物）部門：◎進藤大輔，武藤俊介，竹田精治  
「技術功労賞選考委員会」◎は主査  
委員長：友清芳二（装置・理論主査兼）  
物質系応用研究部門：◎北野保行，大嶋隆一郎，市野瀬英喜  
「奨励賞選考委員会」◎は主査



委員長：坂 公恭

生物系応用研究部門：◎菅沼龍夫, 白倉治郎, 西山彌生

物質系応用研究部門：◎坂 公恭, 遠藤久満, 倉田博基

#### 7. 入退会の件

平山常務理事から2005年5月～8月分の会員異動について報告が行なわれ、承認された。

	8月23日		
	入会	退会	会員数
正会員	32	8	1951
学生会員	11	1	68
永年会員			29
合計			2048
名誉会員			29
賛助会員	1		77
口数	1		141

8. 協賛依頼の件：平山常務理事から標記の件について説明があり、12件の協賛等を承認した。

#### 9. その他

9-1 欧文誌 (JEM) 電子化に伴う冊子体の取り扱いについて

市野瀬欧文誌編集委員長より標記の件について説明があり、協議の結果、冊子体を希望する会員への購読価格について、科研費を獲得できなかった場合を視野に入れた経費のシミュレーションを松井、大谷常務理事（会計担当）が作成し、次回の理事会までに検討することとなった。

#### ◇日本顕微鏡学会平成17年度第3回理事会議事録

日時：平成17年10月31日（月）16:00～18:00

会場：九州大学医学部百年講堂 中会議室

出席者：理事：山科正平, 弘津禎彦, 川上速人, 平山司, 松井良夫, 上野武夫, 桑野範之（兼第50回シンポジウム実行委員長）, 関口隆史, 高井義造, 福島球琳男, 藤川清三（兼北海道支部長）

オブザーバー：欧文誌編集委員長：市野瀬英喜, 第62回学術講演会実行委員長：澤田元, 技術認定委員長：立花利公（兼第16回サマースクール実行委員）, 関東支部長：進藤大輔, 関西副支部長：磯田正二, 九州支部長代理：藤田守

IMC事務局：古屋一夫

委任状出席：理事：大谷修, 柿林博司, 中村裕昭, 永山國昭, 横田貞記, 監事：依藤宏

欠席者：監事：下山宏, 和文誌編集委員長：菅沼龍夫, 広報委員長：丹司敬義

庶務報告：第2回理事会以降の会務について報告が行われた。

2. 会計報告：松井常務理事より、9月30日までの会計状況について報告が行われた。

3. 欧文誌編集委員会報告：編集進捗状況の報告が行われ

た。

4. 和文誌編集委員会報告：編集進捗状況の報告が行われた。

5. 技術認定委員会報告：立花認定委員長より2005年度認定試験結果について合格者が報告された。

6. 広報委員会報告：ホームページの役員名簿と事業報告・事業計画を更新し、また、人事公募を新しく掲載した旨報告された。

7. 学術運営委員会報告（平成17年度分科会・研究部会の件含む）

弘津委員長より理事会に先立ち行われた学術運営委員会・分科会・研究部会責任者合同会議について報告が行われた。先の理事会で承認された「①平成18年度分科会・研究部会設置について、②分科会・研究部会申請要項・用紙」が同委員会です承を受けた旨説明があった。概要は以下のとおり。

1) 平成18年度は下記のとおり1件の研究部会が終了、4件が継続、数件（上限は6）の研究部会を設置するため公募する。

終了 アクティブナノ顕微鏡研究部会

継続 ① SPM で生命現象を捉える手法の開発研究部会

②記録系と画像処理研究部会

③微生物の構造・機能の顕微科学的解析研究部会

④ビーム誘起・励起効果研究部会

2) 平成18年度設置する分科会は原則的に平成17年度からの継続1件、6件は5年経過したため見直しを行う。5年間の活動報告を提出してもらい、継続する場合は各分科会とも申請手続きを必要とする。公募は行わない。

継続 走査型プローブ顕微鏡分科会

終了 ①ニューマイクロスコップ分科会

②分析電子顕微鏡分科会

③高分解能電子顕微鏡分科会

④走査電子顕微鏡分科会

⑤生体構造解析分科会

⑥デバイス解析分科会

8. 支部報告：北海道支部（藤川支部長）、関東支部（進藤支部長）、関西支部（磯田副部長）、九州支部（藤田支部長代理）から本年度各支部事業の中間報告が行われた。

9. 支部区割検討委員会報告：理事会に先立ち行われた会議の概略について報告があり、委員会での方向性がでたので大野委員長が意見をまとめて次回理事会に報告書を提出することとなった。

10. 第63回学術講演会、第17回サマースクールの件  
第63回学術講演会は牛木実行委員長のもと平成19年5月20日～22日に朱鷺メッセで開催されることが承認された。

また、第17回サマースクールについては菅沼実行委員長のもと平成18年7月29日、30日宮崎大学で開催されることが承認された。

11. 日本臨床分子形態学会報告：2005年度から「日本臨

床電子顕微鏡学会」の名称が「日本臨床分子形態学会」に改名されそれに伴い、英文雑誌も Medical Electron Microscopy (MEM) から Medical Molecular Morphology (MMM) へ変更をしたこと、また同年6月に日本顕微鏡学会と「糖尿病性腎症」で合同シンポジウムを開催し、また来年9月に札幌で開催される IMC16 においても協賛していくことが報告された。

12. 第62回学術講演会準備状況報告：澤田実行委員長より第62回学術講演会は平成18年5月20日(土)に横浜市立大学金沢八景キャンパスで開催の予定。午前中は非生物と生物系のセッション、午後は共通セッションで「日本の電子顕微鏡学の創生期」を行う。また懇親会も行う予定であるとの報告があった。

### 13. その他

13-1 応用物理学会結晶工学分科会 共同企画シンポジウム報告：徳島大学で9月8日に行われた第66回応用物理学会学術講演会における日本顕微鏡学会—応用物理学会結晶工学分科会 共同企画シンポジウムについて報告があった。

13-1 弘津副会長から11月2日に下記のメンバーにて会員増強委員会を行うことが報告された。

平山 司 (財) ファインセラミックスセンター  
川上速人 杏林大学  
上野武夫 (株) 日立サイエンスシステムズ  
上野清昭 日本電子(株)  
柿林博司 (株) 日立製作所  
福島球琳男 日本電子(株)

### 【議題】

#### 1. 第61回学術講演会決算の件

松井実行委員長より決算等について説明があり、承認された。

#### 2. 第15回電頭大学決算の件

市野瀬実行委員から決算等について説明があり承認された。

#### 3. 第16回電子顕微鏡サマースクール決算の件

立花実行委員から決算等について説明があり承認された。また、参加者にアンケートをとったところ96%満足の回答が得られたとの報告があった。

#### 4. IMC16の件

古屋総務委員長から準備状況について報告があった。

#### 5. 平成18年度分科会・研究部会の件

弘津委員長より理事会に先立ち行われた学術運営委員会・分科会・研究部会責任者合同会議で和文誌会報に研究部会のみ公募を行うことが決定し、承認された。

#### 6. JEMの電子化に伴う会員サービスの件

松井常務理事よりJEM電子化後の会費シミュレーションを行った旨報告があり、定款内規等で会費の項と会員へのサービスについての項の確認を行った後、会費の改定と会員サービスについて検討していくこととなった。

#### 7. 論文賞の英文表彰状の件

2006年度から英文表彰状を作成することが承認された。文案や台紙についてはJEM編集委員長と常務理事会にて今後検討していくこととなった。

#### 8. リアライズATとの契約更新について

2006年度も継続して委託するかどうか審議され、継続することとなった。

#### 9. 入退会の件(平山常務理事)

平山常務理事より2005年6月～10月の会員異動について報告が行われ、承認された。

	10月24日			
	入会	除名	退会	会員数
正会員	9	79	3	1877
学生会員	2			71
永年会員				29
合計				1977
名誉会員				29
賛助会員				76
口数				140

#### 10. 協賛等依頼の件

平山常務理事から標記の件について説明があり、9件の協賛等を承認した。

- (1) 日本バイオイメージング学会：第14回日本バイオイメージング学会学術集会 10月26日(水)～28日(金) 東京大学農学部 弥生講堂・一条ホール：協賛
- (2) 日本表面科学会：第8回薄膜基礎講座 12月8日(木)～9日(土) 東京工業大学：協賛・掲載
- (3) 日本表面科学会関西支部&表面技術協会関西支部：バイオテクノロジーと表面科学技術 平成18年1月27日(金) 神戸大学滝川記念学術交流会館：協賛・掲載
- (4) (独) 科学技術振興機構：さきがけライブ2005 12月22日(木) 10:00～17:00 東京国際フォーラム B7ホール：掲載
- (5) The Japan Association of Zeolite ゼオライト学会：Symposium on Zeolites and Microporous Crystals (ZMPC2006) 平成18年7月30日(日)～8月2日(水) 米子コンベンションセンター：掲載
- (6) 群馬県産業経済局工業振興課：群馬県職員(選考採用研究員及び任期付け研究員)の募集 9月30日まで：掲載
- (7) 女性科学者に明るい未来をの会：2005年度 女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」受賞候補者の推薦依頼 12月末日(消印有効)：掲載
- (8) (財) 風戸研究奨励会：平成17年度風戸研究奨励金及び風戸奨励賞公募 12月末日(消印有効)：掲載
- (9) (社) 新化学発展協会：平成18年度研究奨励金対象研究計画 平成18年1月31日必着：掲載

第17回 電顕サマースクール

この夏, MIYAZAKI で電顕をはじめよう!

— 実践的な試料作製法と電顕観察の実技指導 —

日本顕微鏡学会は電子顕微鏡をこれから使ってみようとしている初心者の方々から日頃試料作り等で悩んでいるの方々を対象に、毎年サマースクールを開催して来ました。21世紀は生命科学の時代と言われる中で、様々な生理活性物質の細胞内局在を超微形態レベルで明らかにすることの重要性がますます認識されてきています。

本年度は「この夏, MIYAZAKI で電顕をはじめよう!—実践的な試料作製法と電顕観察の実技指導—」と題して日向の国, 宮崎で開催します。今回は電子顕微鏡技術の基本を修得していただくことを目標に、透過型電子顕微鏡・走査型電子顕微鏡の実際とその試料作製法、さらに電顕組織化学、凍結技法について解りやすく解説すると共に、電顕観察ならびに試料作製法の実践的な実技指導を行う予定です。経験豊かな講師の方々から直接指導が受けられる良い機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

第17回 電顕サマースクール実行委員長

菅沼龍夫 (宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野)

会 期 : 2006年7月28日(金) ~ 29日(土)

場 所 : 宮崎大学医学部 (宮崎県宮崎郡清武町)

参加費 (テキスト代を含む) :

会 員 12,000円 (非会員 15,000円)

学生会員 8,000円 (非会員 10,000円)

懇親会費 : 3,000円

申込締切 : 2006年6月30日

申込方法 : 申込用紙に必要事項をご記入の上, 下記宛に郵送, FAX または E-mail でお申し込み下さい。受付後, 参加費振込方法など詳しい案内をお送り致します。

申込・問い合わせ先 :

〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町木原5200

宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野内

第17回電顕サマースクール実行委員会事務局

担当 : 澤口 朗

TEL: 0985-85-1784 FAX: 0985-85-8406

E-mail: summersc@fc.miyazaki-u.ac.jp

(切り取り)

第17回 電顕サマースクール申込用紙(コピー可)

FAX : 0985-85-8406

ふりがな		いずれかをチェックして下さい
氏 名		<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員
所 属		<input type="checkbox"/> 学生会員 <input type="checkbox"/> 学生 非会員
所属先住所	〒	電話
		FAX
連絡先住所	〒	電話
		FAX
E-mail (必須)	懇親会	<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席

受付番号 :

## 第17回 (2006年) 電顕サマースクール in MIYAZAKI プログラム

第1日目 7月28日(金)				第2日目 7月29日(土)			
時刻	内容	講師	時間	時刻	内容	講師	時間
8:30	受付開始						
9:20 ~ 9:30	開校式		10分				
9:30 ~ 10:30	TEMの世界 (試料固定と観察像)	藤田 守 (中村学園大学)	60分	9:00 ~ 10:00	電子顕微鏡の基本原理	友清 芳二 (九州大学)	60分
	休憩		15分		休憩		15分
10:45 ~ 11:45	SEMの世界 (試料固定と観察像)	近藤 俊三 (日本電子)	60分	10:15 ~ 11:15	電顕組織化学	横田 貞記 (山梨大学)	60分
	昼食・休憩		75分		休憩		15分
13:00 ~ 15:00	<実技指導> TEM 基本操作・観察 SEM 基本操作・観察	(株)日本電子  (株)日立ハイテク	120分	11:30 ~ 12:30	凍結技法による試料作製	大野 伸一 (山梨大学) 菅沼龍夫 (宮崎大学)	60分
	休憩		15分		昼食・休憩		60分
15:15 ~ 16:15	TEM 試料作製法 ここがポイント	土肥 良秋 (産業医科大学)	60分	13:30 ~ 16:00	<実技指導> 樹脂超薄切片作製 凍結超薄切片作製  <デモ> 高圧凍結技法	(株)ライカ  宮崎大学 電子顕微鏡ラボ	150分
	休憩		15分		休憩		10分
16:30 ~ 17:30	SEM 試料作製法 ここがポイント	近藤 俊三 (日本電子)	60分	16:10 ~ 16:30	終了証書授与・閉校式		20分
	休憩						
18:00 ~ 19:30	懇親会		90分				